

## 独立系ベンチャーキャピタルのNTVP

### 投資先の改革へ トップ乗り込む

独立系ベンチャーキャピタル

(V.C.)の日本テクノロジーズベンチャーパートナーズ投資事業組合(NTVP、東京、村口和孝代表、03・3815・8641)は村口代表が自ら投資先企業の社長となって経営の抜本的な改革に着手した。投資先企業の経営の柱に育てる予定だったデータセンター事業から撤退し、ソフト開発に経営資源を集中させる。米国ではV.C.が投資先企業の経営に直接関与して体制を改善する例が多いが、日本では珍らしい。

村口代表は社外取締役を務めていた投資先のネットベンチャー、シンソックス(東京・千代田)の代表取締役社長に就任した。前社長の篠田司氏は発行済み株式数の五〇%強を保有しており、引き続きオーナー兼会長にとどまる。

同社はネットビジネス用シス

## 社長に就任 ソフト開発戦略練る

テムの運用を代行するデータセンター事業を経営の核に据えるため、昨春から設備の確保などの準備を進めてきたが、大手企業の参入や米大手の対日進出でサービス価格が予想以上に下落。データセンター事業を本格的に始める前に撤退することに決した。

事業転換に伴い、昨年末の株主総会で新役員陣を決め、社名をアフェクトコミュニケーションズに変えた。篠田氏は「経験豊富で経営能力に優れた村口氏のほうが事業転換を実施するには適任で、社長就任を要請した」と話す。村口氏はソフト開発を進めるため、人員策定や提携など具体的な戦略を立案する。

NTVPは単独で昨年十二月に一億五千万円を追加出資し、追加出資後の持ち株シェアは三〇%弱。村口氏は半年後までに一連の経営改革にメドをつけ、社長を退く考え。村口氏はV.C.最大手、ジャフコから九八年に独立し、NTVPを運営している。投資組合を通じて二十社程度に投資し、うち一社を株式公開させている。